

あおり創生☆NEWS

TOPICS

- 令和5年度第1回産官学情報交換会について
- 八戸工業大学の地域における人材育成
- 「学生と企業人の本音トーク」開催される
- 産学共同「あおり創生ワークショップ」始まる

1. 令和5年度第1回産官学情報交換会について

ここでは、8月10日開催の産官学情報交換会について新しい話題を中心にお伝えします。

■県の令和5年度新規事業等

・学生・若者に青森の価値や可能性を知ってもらうため社会人との対話型交流会を開催するほか、若者とともに動画等を制作。

・「あおり若者定着奨学金返還支援制度」は令和5年度採用分が県内で97社、令和6年度採用分が120社登録。今後も登録企業を増やし、学生の選択肢の幅を広げたい。学生は事前登録が必要なため、引き続き各大学の協力を得て周知していきたい。

■「はちのへ科学技術研究会」

(一般財団法人、2020、4設立)

・八戸高専卒業生が八戸高専産業技術振興会会員(現在222社が会員登録)に再就職する際の支援を実施。令和4年度は13名から問い合わせがあった。(1名は現役大学生12名は首都圏の民間企業に勤務)。うち1名は、青森県内企業に就職が決定、8名が八戸市内企業に再就職。4名は県内企業の待遇等を理由に断念。

■就活の動き

・学生の就活ガイダンスへの参加が減少ぎみ。対面方式が時代にそぐわなくなっているのではないかと。(産)

・日経ビジネス〈5月22日号〉で「就活エージェント」という仕組が紹介されていた。人材コンサルに登録して就職指導を受ける学生が増えているようで、就活の手法が変わってきているのかもしれない。(学)

・大学のキャリア支援センター、ゼミの先生への就職相談が少なくなっている。学生からエージェントの話も実際に出ていて、詳細を調べていかなければならないと思っている。(学)

▼ 産官学情報交換会の様子



■「地域の人事部」

～ NPO法人プラットフォームあおり理事長 米田大吉氏の情報提供・質疑応答より ～

地域に人材が少なくなっているが、県内の企業は単独で人事専門の部署をもつことが難しいので、中小企業

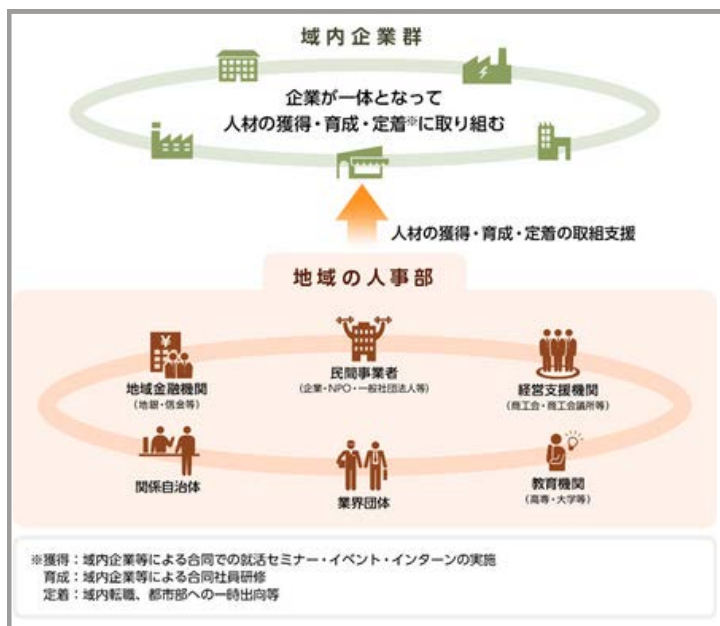
単独ではコストパフォーマンスの悪い、専門的な「人事部」業務を代行する、地域の人事部」が必要となる。

※(注)「地域の人事部」とは、地域の企業群が一体となって地域の自治体・金融機関・教育機関等と連携し将来の経営戦略実現を担う人材の確保や域内でのキャリアステップの構築等を行う総合的な取組。

〈経済産業省ホームページより〉



・中小企業で一番大事なことは、学生がこの経営者と一緒に働きたいと思わせることができるか。経営者が会社の魅力をうまく伝えられないこともあるので経営者と学生を会わせる時にコーディネートする側「地域の人事部」がそこを見極め、話してほしい筋書きを準備しておくことも大事。「肩書や会社の規模だけではなく、経営者を選ぶ」ということが肝になる。



▲「地域の人事部」のイメージ図（経済産業省）

https://www.meti.go.jp/policy/sme_chiiki/jinjibu/index.html

を加工して作成

・地域の課題は、地域の外から見て初めて分かることがある。若い人が一度外に出て、外を体験できる仕組みを作ってあげると、戻ってきやすい。地域の課題を解決するには、そこに暮らす人々が一緒に取り組もうという共有認識を持てる仕掛けが要る。

2. 八戸工業大学の地域における人材育成

▼ 番町サテライト（通称ばんらぼ）

八戸工業大学は、令和4年に創立50周年を迎え、同年4月より工学部を改組し、工学部工学科5コース制となりました。教育研究体制を新たにし、その一つとして感性デザイン学部との共創教育科目である



「北東北八戸の地域学」を開講しました。これは安全安心、健康で文化的な地域社会の創出に貢献できる人材の育成を目的に本学を含め八戸市内の高等教育機関共通の科目で、キックオフの第1回目の講義は熊谷雄一八戸市長にご担当いただき、当地域の歴史・方言産業構造などを学ぶ講義となっています。

また、地域企業の懇意により寄附講座による講義を開講しています。企業の代表者や市内の経営者など様々な業種、経歴をお持ちの方を講師に迎え、オムニバス形式による講義で八戸地域の経済・産業について学生に理解を深めてもらう機会を提供いただいています。

さらに、八戸市中心市街地に産学連携によるサテライトを設置し、週末には本学教員による公開講座を市民向けに開講しています。テーマは時勢に沿った内容や地域のツールを活かした内容となっています。

こうした取り組みにより地域貢献の拠点大学として本学のビジョンである「工学×デザイン×地域」の実現をさらに目指します。

八戸ブロック：八戸工業大学



3. 「学生と企業人の本音トーク」 開催される

青森県立保健大学は平成27年度に、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の対象校となり、女子学生のキャリア支援プログラム開発WGの主査校として、「女子学生のキャリア・生活指向と地元定着の関連を探るためのインタビュー調査」や「新卒看護職の採用力向上セミナー」などを開催してきました。



その後、大分大学の活動などを参考に、医療・保健分野だけでなく一般の企業をも対象として、「多様性（ダイバーシティ）のある職場づくり」をテーマとする「青森県多様性のある職場づくり推進連絡会議」を立ち上げ、本県の若者、特に女性の地元定着や地元への還流のために、企業はどのような職場づくりに尽力すべきか、すなわちいかに多様性のある職場づくりを進めるべきか、を広く企業に認識してもらうため「学生と企業人の本音トーク」を開催してきました。



▲ R3年度 学生と企業人の本音トーク収録

令和3年度、4年度は新型コロナウイルスのため、対面では行えませんでした。代わりにテレビ番組を制作し、就職について学生と企業人が本音で語る様子を広く県民に視聴していただきました。

令和4年度になり、コロナの影響も薄れてきたことから令和5年2月12日に3年ぶりに「学生と企業人の本音トーク」を、青森商工会議所とともに開催し、4人の企業人等と6人の大学生による有意義な話し合いの場を持つことができました。

今後とも青森商工会議所と協力し合いながら「学生と企業人の本音トーク」を開催していきたいと考えています。

青森ブロック：青森県立保健大学



▲ R4年度 トークセッション



▲ R4年度 集合写真

4. 産学共同「あおり創生ワークショップ」始まる

■事業の目的

・このワークショップでは、就活等で目にする県内企業のホームページや就職サイトでの県内企業情報について、学生に日頃感じていることを話してもらいます。

それをもとに、県内企業がよりよい情報発信をしていくためのモデルを制作し、企業の人材確保に役立てていただくものです。

■初回ワークショップの様子

(学生の都合により9月29日、10月16日に分けて実施)

・令和4年度の「オンライン1/8DAYワークショップ～青森で就活～」に引き続き、(株)東北博報堂様が事業の実施にご協力くださることに一。また、授業や就活、実習等の最中、参加してくれたのは弘前大学、青森中央学院大学、青森大学、八戸工業高等専門学校の学生の皆さん、7名。



・さて、青森県の重要課題の一つは若者の流出(県外就職)。県内企業が就職先候補として”選ばれる”には何が必要かを知るために予め準備した、「学生へのアンケート(案)」に実際に記入してもらいながら、学生の声を聞きました(次はそのごく一部です)。

- ・Q1「県内就職・県外就職の希望理由」⇒「地元に貢献したい」「自宅から通える場所で働きたい」ので県内就職を希望。「地元(県外)に帰りたい」ので地元企業をメインに探している。「県内・県外にこだわらない」が県外に出たらいずれUターンしたい。
- ・Q2「どんな企業に魅力を感じるか」⇒「社内の雰囲気がい」「将来性がある」「成長できる環境がある企業」。
- ・Q3「企業のホームページで知りたい情報」⇒「実際に働いている様子(動画)」「働いている人の生の声」「待遇・福利厚生」一などでした。

なお、今回の参加者の意見を聞き、一部の設問を修正の上、県内16校の学生にアンケートをお願いしました。

▼ アンケートURL

<https://forms.office.com/r/2JW2AC70BZ>

URLにアクセスすると入力専用フォームが開きます。

※表示イメージ



■今後について

・次の作業として、企業情報(採用ページ)について県外・県内での良い例とそうでない例をピックアップし、評価の上、改善点を提案してもらう予定です。

・一連のワークショップは令和5年度中に終了する計画で進めており、事業の全容については、いずれ、まとめた上で公開したいと考えています。

編集後記

8月10日、弘前では39.3℃を記録し、各地で記録的な酷暑となった夏も終わり、今はすっかり秋の深まりが感じられる季節になりました。

さて、TOPICSでも取り上げた「あおもり創生ワークショップ」。各大学のご担当者様には、学生の参加募集から、アンケートの周知にご協力いただき誠にありがとうございます。

青森県について、青森県で働くことについて、日頃学生が考えていることを知るために、学生目線で作成されたアンケートですが、集計結果は今後の事業を計画するうえでのちょっとしたヒントにもなると思いますので、皆様にもお伝えしたいと考えています。



編集責任者
弘前大学 社会連携課
小枝 明香